

特集

# 新型コロナウイルスへの対応

～感染防止へ一丸で取り組む～



出席者	更生保護法人しらふじ	大野美雄	理事長
	同	矢野喜郎	施設長
	同	田中あずさ	補導員
	島根県済生会江津総合病院	堀江 裕	名誉院長

新型コロナウイルスへの対応について語り合う大野理事長(左から2人目)ら

新型コロナウイルスは全国に緊急事態宣言が発令されるなど、深刻な事態になりました。

「更生保護法人しらふじ」の所在地、島根県松江市でも感染者が出るなど、緊迫した局面もありましたが、5月半ばには緊急事態宣言が解除され、少しずつ日常生活が戻りつつあります。利用者の健康診断などでお世話になっている島根県済生会江津総合病院の堀江裕名誉院長を交えて、新型コロナウイルスにどう対応したのかを話し合いました。



**堀江** ゴールデンウィークを過ぎて、日本国内の感染者は少なくなってきました。私の専門は肝炎ですが、一般に新型コロナウイルスも含めてウイルスは高温多湿に弱く、日本には夏に向かうという気候的なアドバンテージがあることに加えて、マスクを着け、手洗いやうがいを中心とするなど日本人の規律性も感染鎮静化には良かったと思います。今後、

ワクチンや薬ができると、安心感が出てくると思います。

**大野** 堀江先生には、利用者の健康診断をボランティアで続けていただくなど日ごろ、施設運営に大変な貢献をしてくださり、深く感謝申し上げます。今回のような事態になりますと、専門家の方が近くにいっていただけることは大変心強いです。利用者の中から感染者が出れば、施設全体の運営を中止せざるを得ない状況になりますので、本当に心配しました。職員が強い危機感をもって対応し、利用者も職員が示したルールを守ってくれたので、感染者を出すことがなく、ひと安心しています。



「職員、利用者一体となった取り組みで感染者発生を防げた」と語る大野理事長



## ■利用者に協力を求める

**矢野** 法務省から更生保護法人に対応方針が示され、4月17日に全国に緊急事態宣言が発令されたのを受け、法務省方針に沿って施設長指示を出しました。

この中では、不要不急の外出をしない、飲食店に行かない、手洗い・うがいの励行、他の人の部屋に行かないなどを盛り込み、協力を求めました。食堂には4人掛けのテーブルが4つありますが、テーブルは2人掛けにするなど施設内で対応できることをあれこれ工夫しました。4月19日の夜には利用者全員を集め

大野理事長から、直接、注意を喚起してもらいました。

**大野** 利用者の皆さんは、今回の事態についてよく理解してくれたと思います。利用者にも危機感があつたと思います。

**堀江** お話をうかがい、施設として一連の対応はとても良かったと思います。私は利用者の皆さんの健康診断をしています。高年齢者や高血圧、肝炎など基礎疾患のある人が多く、さらにタバコやお酒などを楽しむ人もおり、感染症に対しては、より注意が必要です。

**田中** 国内で感染者が増えてきて、3月上旬にマスクを注文しようとしたら、手に入らなくて困りました。幸い不織布がまだ売っていたので、買い求め、マスクを手作りしようとゴムを注文していたところ、地元・松江地区更生保護女性会から手作りのマスクを寄付していただきました。困っていたので、とてもありがたかったです。

**矢野** その後も、「しらふじ」

の役員や各地区の女性会からマスクを寄付していただきました。日ごろ利用者が働かせてもらっている協力雇用主の2社からも、アルコール消毒液やマスクを寄付していただきました。

**田中** アルコール消毒液もなくなりかけていて、厚労省のホームページで漂白剤を薄めて消毒に利用できる方法が掲載されていたので、作ろうとしていたところでしたので助かりました。各方面から寄付していただいたおかげでマスクは1日1枚使用できました。

施設では公衆電話の利用が多いので、その都度、消毒しました。事務室への来客や利用者との対話の際に必要なビニールの遮蔽板しゃへいは、透明のゴミ袋で自作しました。

## ■マスクなど支援次々と

**大野** マスクの寄付など多くの皆さんが、「しらふじ」を思ってくださいるからだと思っています。



コロナウイルス対策臨時利用者集会(4月19日)

これまで大きな事故やトラブルもなく施設を運営できてきたから、地域の皆さんに認めていただいているとあらためて思いました。いろいろな場面で職員の負担は高まっています。本当に頑張ってもらっています。

**矢野** 食事は調理員の上田喜平さんが腕を振ってくれていて、「おいしい」と利用者に好評です。季節の食材を上手に利用して、おいしい食事を楽しむことで、利用者の健康維持につながり、免疫力も高まると思います。

**田中** 利用者は、施設長と理



感染防止の取り組みを評価する堀江名誉院長



事長から直接、話を聴き、未知の感染症に対する理解が深まったと思います。外出の多い利用者の一人が朝、「おはよう」のあいさつをする前に「今日は外出しないから」と、話に来て、意識が変わったなあと感じました。利用者の外泊は禁止で、5月のゴールデンウィークは外泊も県外異動も禁止でしたが、皆さんルールを守っていました。

**堀江** 「しらふじ」は数年前に建て替えがあり、新しい施設になったことも感染症対策をする上では良かったと思います。医療現場に携わっている者としては、更生保護施設で診察すること、病院では分からない世の中の動きを知ることができ、勉強になります。これからもういろいろと協力していければと思います。

**大野** 利用者は定期的な健康診断を受けたことがない人がほとんどです。専門家から自分の体のことや健康の大切さについ



「マスクや消毒液の寄付などありがたかった」と話す田中補導員

て話を聞くことができるのは、本人にとってありがたいことです。ここで暮らす間に、社会生活を送る上で守らなくてはならないことや必要なことを学ぶことも大事なことだと思えます。今回の新型コロナウイルスの感染防止については、社会全体で取り組む必要がありますので、こうした経験ができ、社会の一員としてルールを守ることを学べるという、いい面もあったと思います。

**堀江** 私は鳥取県西部地震も経験しました。不安にかられ、うつ病を発症する人が増えるなど地域全体が暗いムードになり

ますが、不安や恐ればかりでは、次の暮らしの展望が開けません。前向きな気持ちで立ち向かっていかなくてはなりませんね。私は「衆生の劫尽きて大火に焼けるとも この地は安穩にして天人常に充滿せり」という仏教の言葉を心の支えにしてみました。今回の感染第一波は、職員の皆さんの熱心な指導で、利用者の協力があり感染者を出さずに乗り切ることができました。外部からも温かい支援が寄せられたこともうれしいですね。

**矢野** 全国に発令されていた緊急事態宣言は解除されましたが、感染防止のための「新しい生活様式」が国から示されまし

た。松江市はこの「新しい生活様式」を覚えやすいようにと「松江城（まつえじょう）」の語呂合わせで市民に注意を喚起しています。「まめに手洗い・つけようマスク・縁はそのまま3密をさけて・上手に換気を・ウイルスに負けない健康管理」で「ま・つ・え・じょ・う」です。いいアイデアだと思い、利用者の居室に配り、注意を呼び掛けています。



「感染防止のため、あれこれ工夫した」と話す矢野施設長





## 来所者

(敬称略)

- ◆ 検察庁職員研修 3名
- ◆ 奉仕作業 松江地区更生保護女性会 城西支部 3名
- ◆ 二水会
- ◆ しらふじ雇用主会
- ◆ 島根県済生会江津総合病院 健康診断 5名
- ◆ 法話の集い 高禅寺住職 佐野晃孝師
- ◆ 松江家庭裁判所次席調査官他1名 奉仕作業 松江地区更生保護女性会 城北支部 6名
- ◆ 定着支援センター
- ◆ 岩崎支援部長 鎌瀬主事着任挨拶
- ◆ 松江保護観察所 笹岡統括・岸統括・吉村観察官着任挨拶
- ◆ 指面の寄贈について 濱田珠鳳氏 他1名
- ◆ 島根あさひ社会復帰促進センター 大串センター長着任挨拶
- ◆ 合同会社Hプラント 1名
- ◆ 松江地区更生保護女性会 会長他5名
- ◆ 安来地区更生保護女性会 会長
- ◆ LCC株式会社 (令和2年1月1日～6月30日)

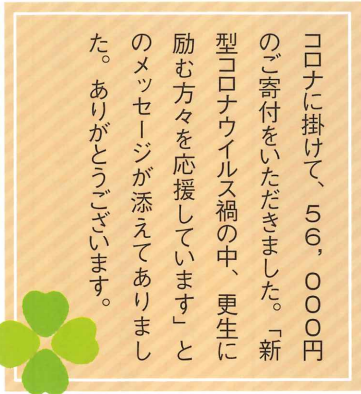
## 寄付金

(敬称略受付順)

- ◆ 松江地区更生保護女性会
- ◆ 松江地区更生保護女性会城西支部
- ◆ 平田地区更生保護女性会
- ◆ 平田地区更生保護女性会平田支部
- ◆ 宗泉寺 澤真吾
- ◆ 佐田地区更生保護女性会
- ◆ 松江地区更生保護女性会城北支部
- ◆ 舟越憲雄
- ◆ 松江地区更生保護女性会法吉支部
- ◆ 常光寺護持会
- ◆ 大野美雄
- ◆ 大野志保
- ◆ 八雲地区更生保護女性会 (令和2年1月1日～6月30日)

## 助成金

(敬称略)



- ◆ 更生保護法人島根保護観察協会 (令和2年1月1日～6月30日)

## 寄付品

(敬称略受付順)



- ◆ 浪花秀明 / 食品
- ◆ 宇山恵美子 / 衣類
- ◆ 河上摩耶 / 衣類
- ◆ 今井寿美子 / 衣類
- ◆ 北原則夫 / マグカップ
- ◆ 花田 / 野菜
- ◆ 石川咲子 / 洗剤
- ◆ 鐘築育子 / バレンタインチョコ
- ◆ 須田 誠 / 衣類
- ◆ 高橋 / 花



- ◆ 島根県立松江工業高等学校 卒業生有志 / 実習服
- ◆ 佐田地区更生保護女性会 橋波支部 / 日用品・米
- ◆ 中村弘恵 / 衣類
- ◆ 金森惣司 / 掃除機
- ◆ 陶山和實 / マスク・布団・衣類
- ◆ 吉岡 誠 / 作業着
- ◆ 荊尾富夫 / 布団
- ◆ 恩田祥雄 / マスク
- ◆ 引野喜久代 / 冷蔵庫・カラーボックス等
- ◆ 合同会社Hプラント / マスク・消毒液
- ◆ 松江地区更生保護女性会 / マスク
- ◆ 安来地区更生保護女性会 / マスク
- ◆ LCC株式会社 / マスク・日用品・洗剤等
- ◆ 更生保護法人日本更生保護協会 / マスク・消毒液



◆青木薫代／バスタオル

◆吉岡登美男／マスク

◆邑智郡女性有志／マスク

◆山本 昌／マスク

(令和2年1月1日～6月30日)



# し ら ふ じ 友 の 会

(敬称略)

## 【賛助会員】

◆内藤 昇

◆石川咲子

◆今岡克己

◆福岡典子

◆【普通会员】

◆宮下淳子

◆松江刑務所

篤志面接委員連絡協議会

◆澤 真吾

◆大野道源

◆藤原三葉

◆河野ヒロ子

## 【特別会員】

◆安来地区保護司会

◆佐々木滋子

◆舟越憲雄

◆林 守

(令和2年1月1日～6月30日)

## 寄付金をいただいた

# 支 援 事 業 所 会

(敬称略)

◆有限会社サインプラン

◆株式会社昭和建築

◆株式会社日新電気

◆株式会社伸興サンライズ

◆カナツ技建工業株式会社

◆株式会社小草建築設計事務所

◆有限会社キョウワビルト工業

◆株式会社松文オフテック

◆株式会社ユニコン

◆松本金物建材店

◆福岡商事(株)松江支店

◆リビングウイル

◆島根塗装店株式会社

◆株式会社スクラム工業

(令和2年1月1日～6月30日)

## 編集後記

表紙に載っている座談会の写真をご覧になって、普段と違うことに気づかれたと思います。そう、新型コロナウイルス感染症防止対策として、全員がマスクをつけ、いわゆる3密(密閉・密集・密接)を避けるために窓を開け、長机に一人座っているのです。半年前なら考えられなかったことが、今では当たり前の光景となっている。では、いつ半年前に戻るのか、果たして戻るのかといえは、誰もが首をひねられるのではないのでしょうか。

今回の座談会も、これまで誰一人として体験しなかった新型コロナウイルスについて、「しらふじ」がとった対策や対応を後々に残す意味があるのではないのか、との思いから企画したものです。長年、利用者の訪問検診をいただいている堀江裕・済生会江津総合病院名誉院長のご理解、ご快諾を得て有意義な座談会となりました。また、座談会でも触れているように、各地の更女の会や協力雇用主などからマスク、消毒液など多くの善意が寄せられたことが施設関係者にとってどれほど心強かったことか。

新型コロナウイルスの影響でいろいろな行事や活動が中止や延期となったため、今回の「しらふじ」はいつもよりスリムとなっていますが、内容は濃いものになったと思います。じっくりご覧になっていただければ幸いです。(瑛)

## 施設の運営にご協力をお願い

施設や事業の充実のために物品や資金が必要です。そのためご寄贈をお願いし、会員を募集いたします。会員と年会費は下記のとおりです。

しらふじ友の会  
会員の募集

- 賛助会員 2,000円以上
- 普通会员 5,000円以上
- 特別会員 10,000円以上
- 法人会員 20,000円以上

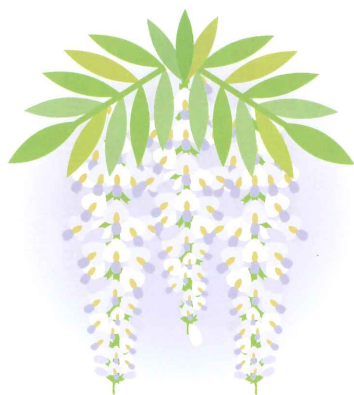
入金及び  
寄付金振込先

ゆうちょ銀行(口座番号) 01450-1-30366  
加入者名 更生保護法人しらふじ

詳しいことは、下記までおたずねください。

更生保護法人しらふじ 松江市奥谷町306-1  
TEL 0852-21-5383 FAX 0852-67-5393  
メールアドレス: shimanekouseihogokai@sage.ocn.ne.jp  
HP アドレス: http://shirafuji-shimane.com

しらふじ  検索  でも検索できます。





# コロナと春台さん

久城春台、通称春台さんは、

江戸時代前期に活躍した松江藩のご典医です。名声は遠近に轟き、治効は神のごとく、扁創（扁鵲と創公・共に中国の春秋戦国時代の名医）の生まれ変わりと賞されました。しらふじの地に屋敷があり、医療活動に使った井戸が今も裏手にあります。

「没後は屋敷内の石を用いて水盤を作り、井戸水を供えて祈ればどんな病も必ず治る」と遺言して桐岳寺に埋葬されました。正徳5（1715）年のことでした。

コロナ発生以来、桐岳寺住職として毎朝の勤行で職員、利用者が感染しないよう、春台さんにご祈祷してきました。

施設長以下職員の徹底した消毒、指導、利用者の感染リスクへの意識向上によるルール遵守



久城春台が医療活動に使った井戸（しらふじ施設内）

と春台さんのご利益により、今日まで何とか感染者を出さずにきました。目に見えない、なにかしら大きな力を感じます。終息まで引き続き気を引き締め、春台さんにもお守りいただきながら施設運営をして行くつもりです。

（理事長・大野美雄）

# 料理楽しみ タケノコ掘り

## 松江 更生保護施設利用者が体験

刑務所や少年院を出所、退院した人などが一時的に暮らす松江市奥谷町の更生保護施設「しらふじ」の竹林ではこのほど、利用者がタケノコ掘りを体験した。

旬の食を味わう機会として毎年この時期に実施している。施設では現在、10、60代の男性15人が集団生活を送り、就業体験を積んで社会復帰を目指している。

施設の利用期間は約2カ月で、四季に

合わせたさまざまな行事がある。

施設職員と利用者2人がクワを持って施設裏の竹やぶに移動し、ひよここりと顔を出した約10本のタケノコを熱心に掘り起こした。

取れたタケノコは毎回、施設の調理員が炊き込みご飯などにして提供する。

和歌山県出身で松江刑務所を出所した利用者の男性（57）は「こちらの食事は本当においしく心が温まる」と笑顔を見せ、食卓上がるタケノコ料理を楽しみにした。

しらふじの利用者は、出所しても親族などの身元引受人がないケースがほとんどだとい、大野美雄理事長は「多くが家庭環境に恵まれなかった人たちだ。ここで季節と家庭の味を感じてほしい」と更生の一助になることを願った。



施設職員の手ほどきを受けてタケノコを掘る利用者

令和2年5月10日（日曜日）付の山陰中央新報に、「しらふじ」で毎年行っている「裏山のタケノコ掘り」が記事となりました。その記事を転載しました。